

SRS SRS エアバッグ

作業上の注意	2	・ 4 本スポークステアリングホイールの取り外し、取り付け	19
・ SRS エアバッグ、プリテンショナーシートベルト付き車に関する注意	2	・ 3 本スポークステアリングホイールの取り外し、取り付け	21
・ 注意	2	スパイラルケーブル	23
準備品	4	・ 取り外し、取り付け	23
・ 特殊工具	4	・ スパイラルケーブルの点検	24
故障診断	6	助手席エアバッグモジュール	25
・ 故障診断概要	6	・ 取り外し、取り付け	25
・ 故障診断の進め方	6	前席サイドエアバッグモジュール	27
・ 構成部品取り付け位置	6	・ 取り外し、取り付け	27
・ 回路図	7	サテライトセンサー	29
・ CONSULT- II の機能	7	・ 取り外し、取り付け	29
・ 自己診断機能（CONSULT- II を使用しない場合）	9	プリテンショナーシートベルト	30
・ システム点検	9	・ 取り外し、取り付け	30
・ 故障診断要領（CONSULT- II を使用する場合）	11	エアバッグセンサーユニット	31
・ 故障診断要領（CONSULT- II を使用しない場合）	15	・ 取り外し、取り付け	31
・ 現象別故障診断早見表	18	エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトの廃却処理	32
運転席エアバッグモジュール	19	・ エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトの廃却処理	32
		事故後処理	37
		・ 事故後処理	37

A

B

C

D

E

F

G

SRS

I

J

K

L

作業上の注意

PFP:00001

SRS エアバッグ、プリテンショナーシートベルト付き車に関する注意

JHS0012F

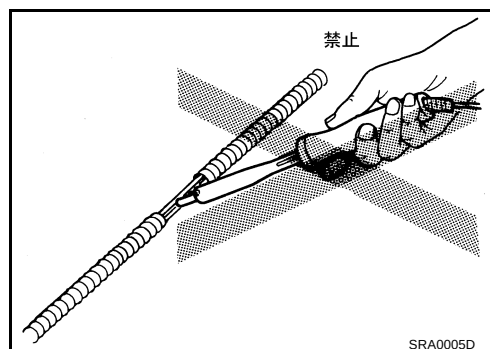
- 警告：**・ SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステム関連の構成部品脱着及びハーネス脱着は、キースイッチ OFF で、バッテリーマイナス端子を外してから 3 分以上放置後行うこと。（エアバッグセンサーユニット内の補助電源回路に蓄えられた電気を放電させるため。）
- ・ 構成部品の脱着に、エアツール及び電動ツール等は使用しないこと。
 - ・ SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステム用のハーネスは、ハンダ等による修理はしないこと。また、ハーネスの噛み込み及び他部品との干渉に十分注意すること。
 - ・ SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルト回路及び単品状態での点検をするときはサーキットテスター等の電気テスターを使用しないこと。（テスターの微電流による作動防止）
 - ・ エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトのコネクタに、ドライバー等の異物の差し込みはしないこと。（静電気による作動防止）
 - ・ SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトには、識別として黄色のハーネスコネクタを使用し、他のハーネスとの区別をしている。
 - ・ 安全に整備作業を行うため、「SB シートベルト」及び「SRS SRS エアバッグ」を参照すること。

注意

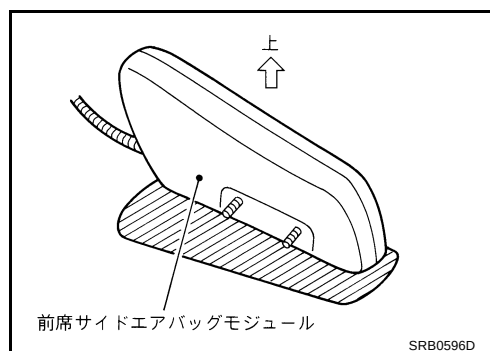
JHS0008I

- ・ 構成部品の脱着、SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステム関連ハーネスの脱着は、キースイッチ OFF で、バッテリーマイナス端子を外してから 3 分以上放置後行うこと。
（エアバッグセンサーユニット内の補助電源回路に蓄えられた電気を自己放電させるため。）

- ・ エアバッグセンサーユニットの脱着に、エアツール及び電動ツール等は使用しないこと。
- ・ SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステム用のハーネスは、他のハーネスと区別するため、コネクタ首下に黄色のテープで識別している。
- ・ SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステム用のハーネスは、ハンダ等による修理はしないこと。また、ハーネスの噛み込み及び他部品との干渉に十分注意すること。
- ・ エアバッグモジュールは非分解のため、インフレーターを取り外はしないこと。

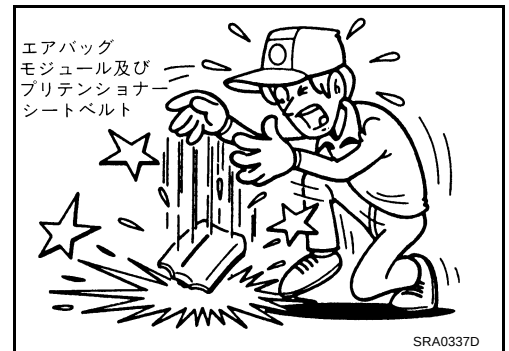


- ・ エアバッグモジュールを単品で置くときは、運転席エアバッグモジュールはパッド面を、助手席エアバッグモジュールはリッド面を上にして、前席サイドエアバッグモジュールは、スタッドボルト側を下にして立てて置くこと。（万一の作動に対する備え）
- ・ エアバッグモジュールは 90 °C 以上、プリテンショナーシートベルトは 80 °C 以上の高温になる所に置かないこと。

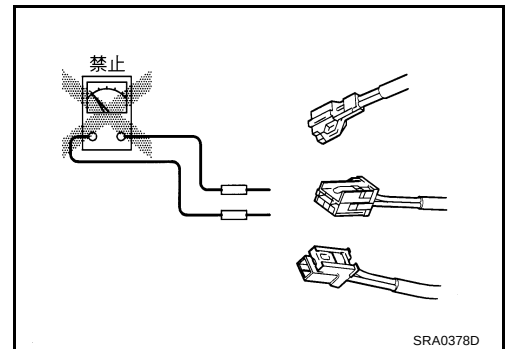


作業上の注意

- エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトに落下等による衝撃を与えないこと。衝撃を与えた場合、交換となる。
- エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトにオイル、グリース、洗淨油、水等を付着させないこと。



- 車両取付状態でエアバッグセンサーユニット、エアバッグモジュール、プリテンショナーシートベルト及び関連ハーネスの点検また、単品状態での点検に、サーキットテスター等の電気テスターは使用しないこと。(テスターの微電流による作動防止)
- エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトのコネクタに、ドライバー等の異物の差し込みはしないこと。(静電気による作動防止)
- システム回路の診断は、SRS エアバッグ警告灯による診断及びCONSULT- IIの診断で行うこと。サーキットテスター等の電気テスターは使用しないこと。



A

B

C

D

E

F

G

SRS

I

J

K

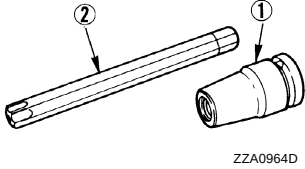
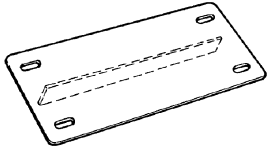
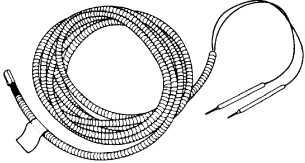
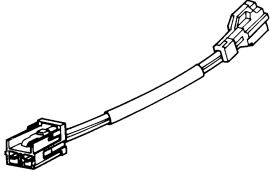
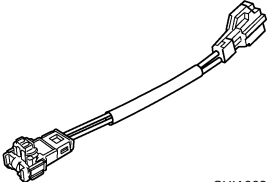
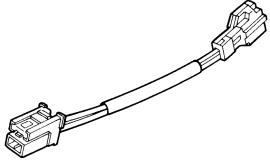
L

準備品

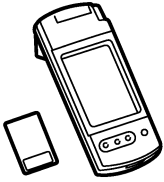
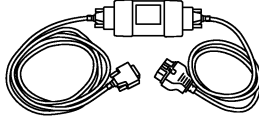
準備品 特殊工具

PPF:00002

JHS0008J

名称	用途
1. ビットホルダー HT6196 1000 2. トルクスビット HT6215 2000	 ZZA0964D 助手席エアバッグモジュール、エア バッグセンサーユニット脱着
エアバックモジュール固定用 ブラケット KV991 05300	 ZZA0968D エアバッグモジュール固定
ディプロイメントツール KV991 04600	 ZZA0966D エアバッグモジュールの強制作動
変換コネクタ KV991 08300	 ZZA1166D ディプロイメントツールと助手席エア バッグモジュール及びサイドエアバ ッグモジュール（車載展開時）との接続
変換コネクタ KV991 09700	 SHIA0038J ディプロイメントツールと運転席エア バッグモジュール及びプリテンショ ナーシートベルトとの接続
変換コネクタ KV991 09000	 ZZA1190D ディプロイメントツールとサイドエア バッグモジュール（単品展開時）との接 続

準備品

名称	用途
電子システム診断テスター・ CONSULT- II EG11870001 プログラムカード EG11870100 (バージョン JJD03A-1)  PBIA3527J	システム診断
DDL2 診断コネクター 変換アダプター CONSULT- II CONVERTER EG11900000  PBIA3526J	

A

B

C

D

E

F

G

SRS

I

J

K

L

故障診断

故障診断

PFP:00004

故障診断概要

JHS0008K

SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステムの故障診断は、SRS エアバッグ警告灯及び電子システム診断テスター・CONSULT- II による診断が可能である。

ユーザーモード診断は、SRS エアバッグ警告灯によって、故障をドライバーに知らせる。

故障状態モード診断によって、異常部位の把握とその点検をすることができる。

SRS エアバッグ警告灯及び CONSULT- II の診断モードの適用は以下の通りである。

	ユーザーモード診断	故障状態モード診断	表示タイプ
SRS エアバッグ警告灯	●	●	点灯 - 点滅
CONSULT- II	—	●	モニタ

注意：・ SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステムの回路を電気テスター等で点検しないこと。

- ・ SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステムのハーネスは識別として黄色いハーネスコネクタを使用している。

故障診断の進め方

JHS0008L

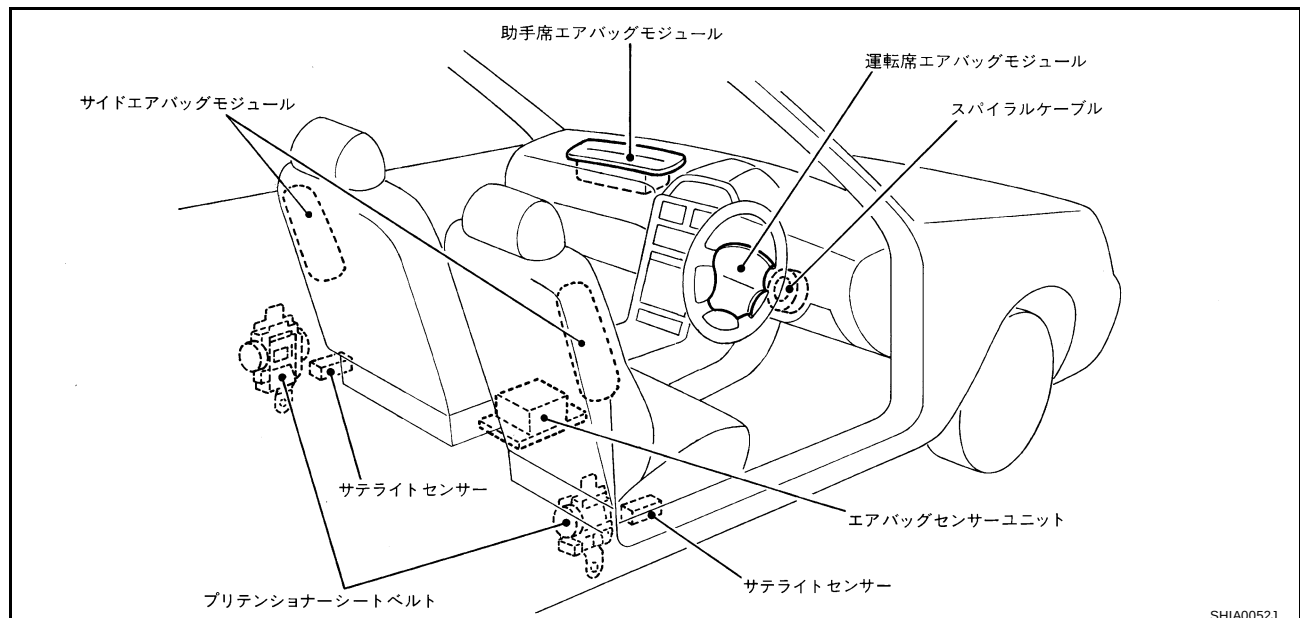
診断前点検

以下の項目を点検する。

- ・ 「SC 始動・充電システム」の「[点検](#)」(SC-5 ページ)を参照。
- ・ 「PG 電源アース回路・電装部品」の「[端子配列](#)」(PG-2 ページ)を参照。
- ・ システムコンポーネントからハーネスへの結線。

構成部品取り付け位置

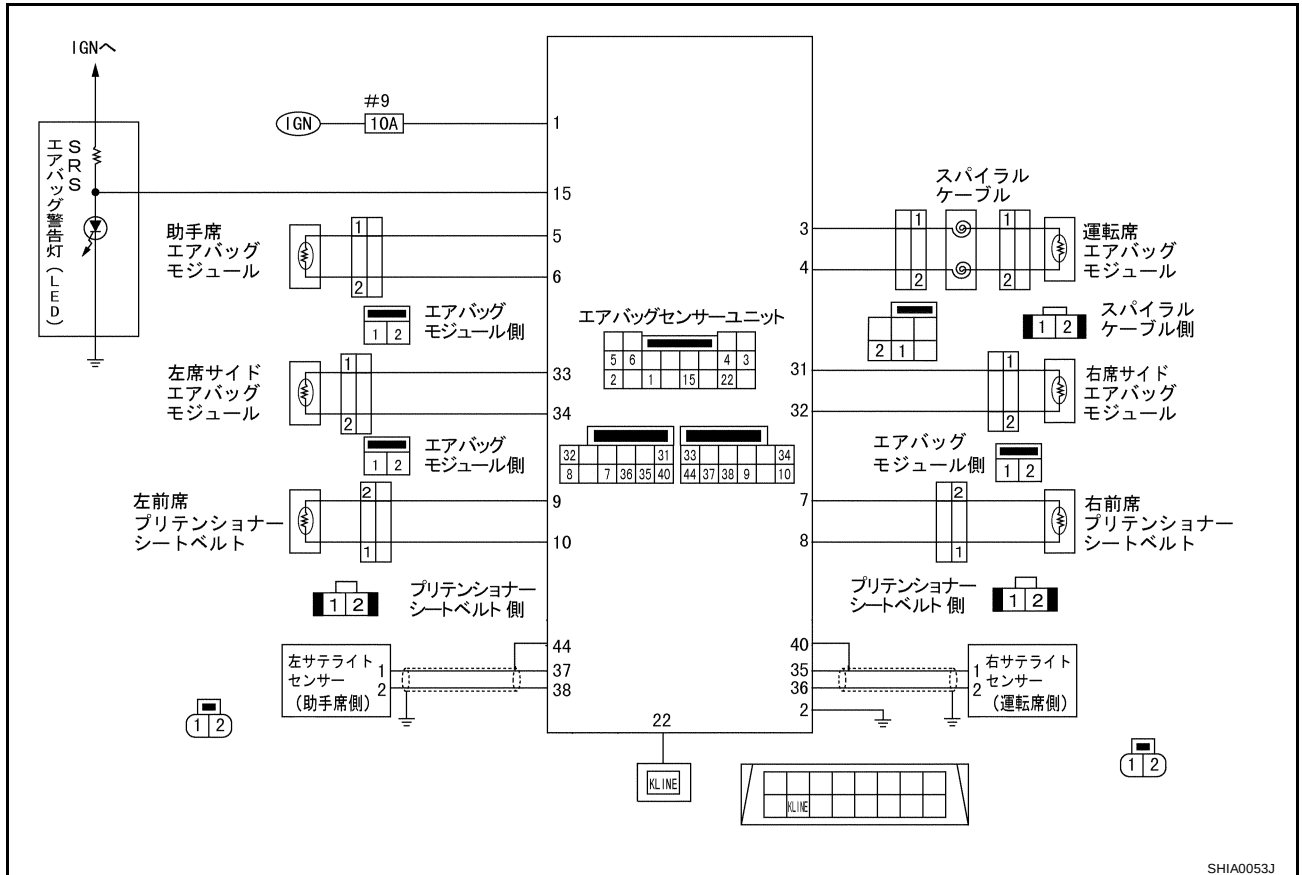
JHS0008M



SHIA0052J

回路図

JHS0008N



CONSULT- II の機能

JHS0008O

自己診断

自己診断

- 現状の自己診断結果を表示する。
- 二系統以上が故障した場合、全ての不具合箇所を表示する。
- 通常は自己診断結果 [記憶] と同じ不具合箇所が表示されるが部品交換等の作業によって修理が完了された不具合箇所は表示されなくなる。
- 修理後「*** 異常なし ***」と表示した場合は必ず「記憶消去」を実行すること。(この操作を怠るとユーザーモードに戻したとき、SRS エアバッグ警告灯が点滅したままとなる。)

自己診断 [記憶]

- ユニットが記憶している診断結果を表示する。
- 一度発生した故障の修理が完了しても「記憶消去」を実行するまで不具合箇所を記憶し、表示する。

故障履歴表示

- 過去にユニットが記憶した不具合箇所を表示する。
- 過去に一度も不具合箇所を記憶していない正常なユニットでは、「*** 異常なし ***」と表示する。
- 故障履歴表示に記憶された部位は「記憶消去」できない。

コントロールユニット識別番号

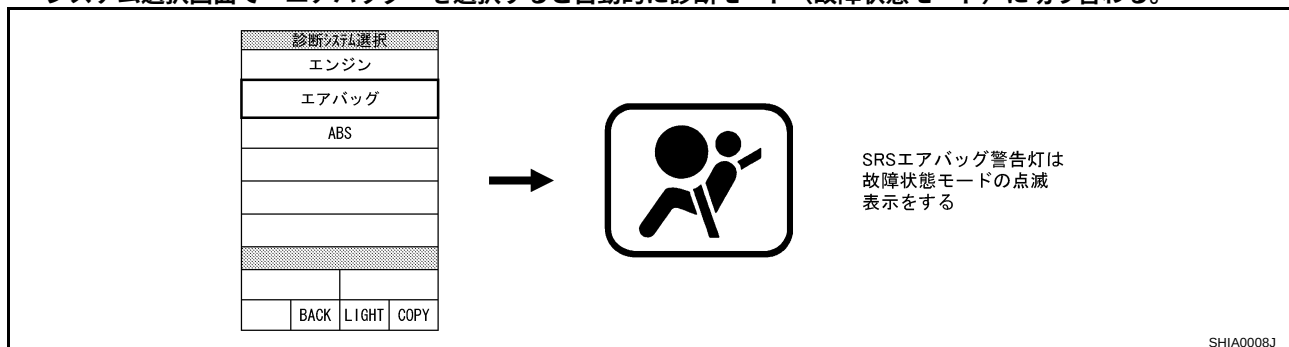
- エアバッグセンサーユニットの識別番号を表示する。

故障診断

自己診断モードの切り替え

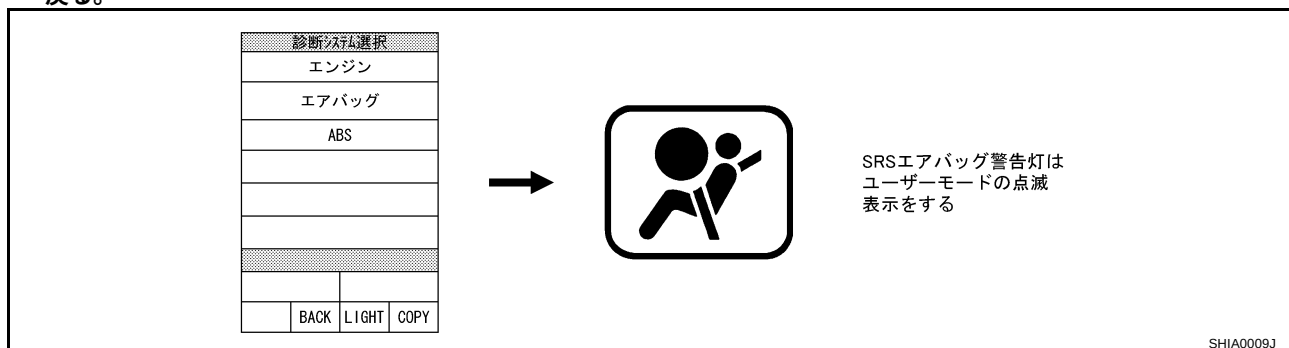
ユーザーモードから診断モード

システム選択画面で“エアバッグ”を選択すると自動的に診断モード（故障状態モード）に切り替わる。



診断モードからユーザーモード

診断モードからユーザーモードに戻すには、システム選択画面になるまで“戻る”をタッチすればユーザーモードに戻る。



自己診断結果の消去

自己診断結果

現状の自己診断結果が表示される。異常箇所の修理を完了した後、自己診断結果では異常が表示されない。

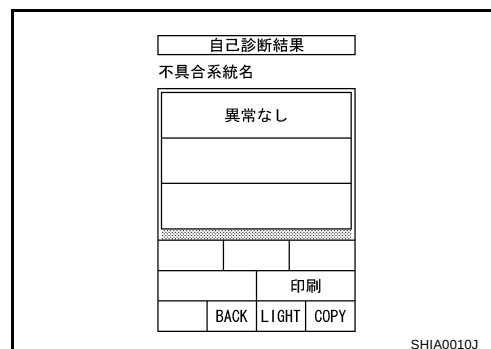
自己診断結果 [記憶]

“戻る”のキーを押して診断項目選択画面に戻り自己診断結果を選択し“記憶消去”を押す。

参考：自己診断結果 [記憶] で故障の記憶が消去されていない場合、異常箇所の修理が完了していても SRS エアバッグ警告灯はユーザーモードの点滅で故障状態を表示する。

故障履歴表示

故障履歴表示の記憶は消去できない。

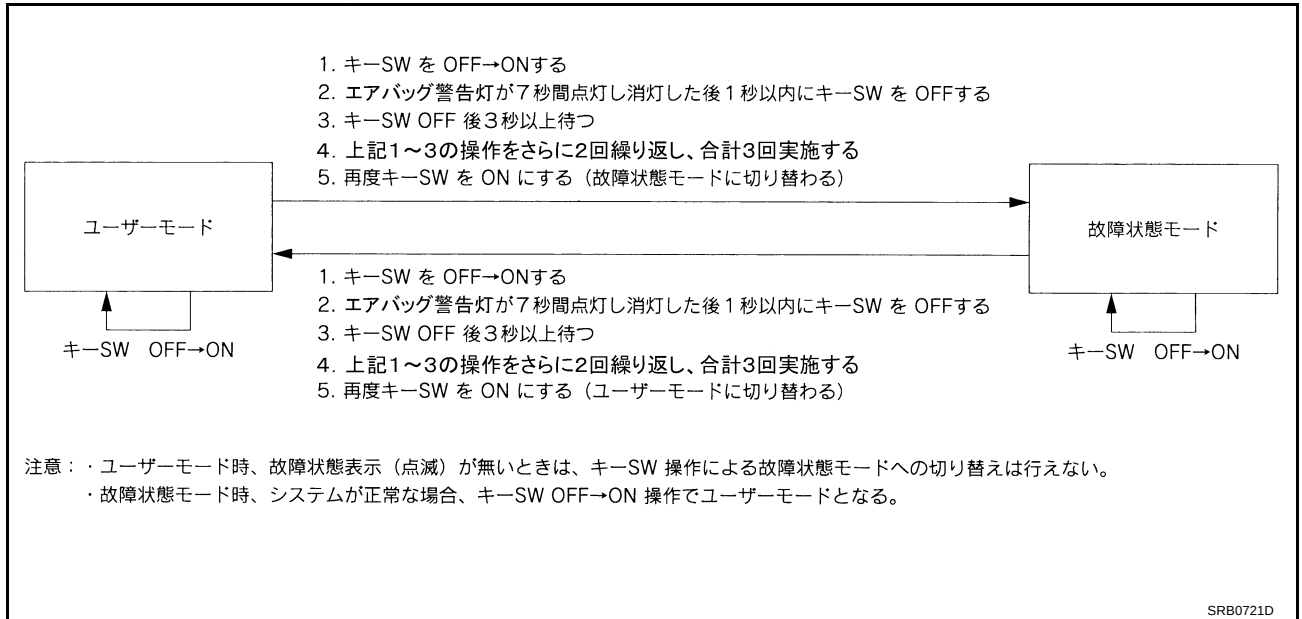


自己診断機能（CONSULT- II を使用しない場合）

JHS0008P

- ・ 診断は、ユーザーモード、故障状態モードの 2 種類ある。
- ・ 診断モード切り替えは、キースイッチ操作で行う。

自己診断モードの切り替え



自己診断結果の消去

異常箇所修理後、故障状態モードでシステムの状態を確認し、キースイッチを一度 OFF にした後、再度 ON にするとユーザーモードに切り替わり、診断記憶は消去される。

システム点検

JHS0008Q

診断手順 1

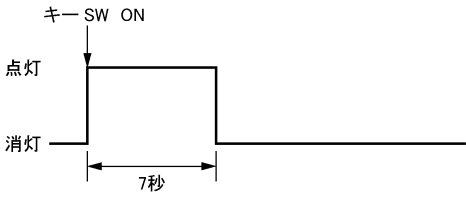
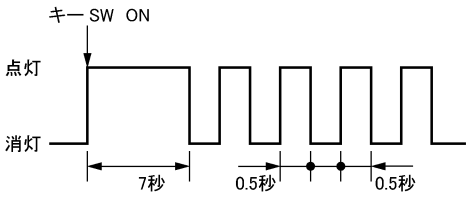
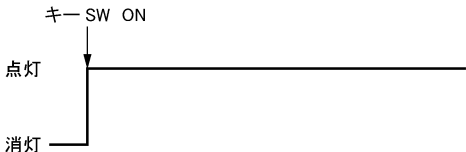
SRS エアバッグシステム点検

1. キースイッチを OFF から ON にして、SRS エアバッグ警告灯の点滅を見る。
2. SRS エアバッグ警告灯の点滅を表示例と比較する。



SRS

故障診断

警告灯表示例		
警告灯表示	故障部位	参照項目
 キー SW ON 点灯 消灯 7秒 SHIA0011J	正常	—
 キー SW ON 点灯 消灯 7秒 0.5秒 0.5秒 SHIA0012J	システム故障時	「故障診断要領 (CONSULT- II を使用する場合)」(SRS-11 ページ)、「故障診断要領 (CONSULT- II を使用しない場合)」(SRS-15 ページ) を参照
 キー SW ON 点灯 消灯 SHIA0013J	エアバッグ展開	「事故後処理」(SRS-37 ページ) を参照
 キー SW ON 点灯 消灯 SHIA0014J	エアバッグセンサーユニットまたはエアバッグ警告灯回路故障時 (常時消灯)	「現象別故障診断早見表」(SRS-18 ページ) を参照

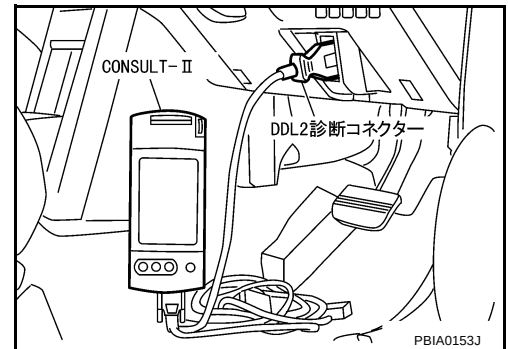
注意： 上記とは、異なる SRS エアバッグ警告灯の作動が出た場合、「故障診断要領 (CONSULT- II を使用しない場合)」(SRS-15 ページ) を参照。

故障診断要領（CONSULT- II を使用する場合）

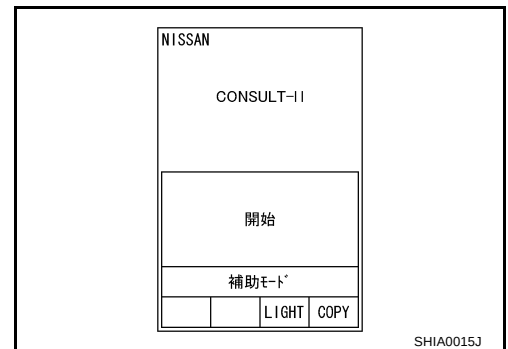
診断手順 1

CONSULT- II を使用して SRS エアバッグ・プリテンショナーシートベルトの不具合箇所を調べる。

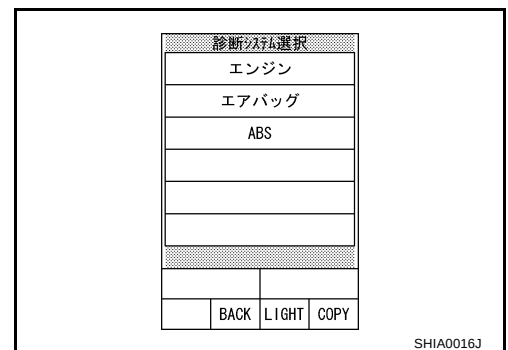
1. キースイッチを OFF にする。
2. CONSULT- II を車両側診断コネクタに接続する。



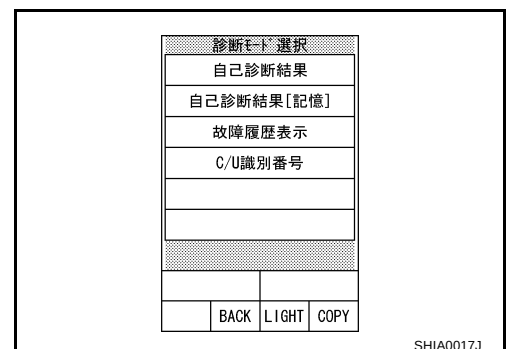
3. キースイッチを ON にする。
4. CONSULT- II のタッチキー操作で“ 開始 ”を選択する。



5. CONSULT- II の「システム選択」画面で“ エアバッグ ”を選択する。



6. CONSULT- II の「診断モード選択」画面で必要な“ 診断モードキー ”を選択する。



故障診断

a. “自己診断結果”を選択

- 自己診断結果を表示する。

自己診断結果			
不具合系統名			
インフレータ [断線]			
記憶消去		印刷	
MODE	BACK	LIGHT	COPY

SHIA0019J

i. システム点検(警告灯表示)で故障表示をし、「自己診断結果」で故障表示されない場合は、下記が考えられる。

- 異常箇所を修理後、「自己診断結果〔記憶〕」の診断結果が消去されていない。
- 過去に間欠故障^注が起きていた。

注意： 間欠故障とは過去に一度発生した異常が正常に復帰すること「[診断手順 2](#)」(SRS-13 ページ)、「[診断手順 3](#)」(SRS-13 ページ)を参照。

b. “自己診断結果〔記憶〕”を選択

- 自己診断結果で、「記憶消去」が実行されない限り異常箇所を記憶し表示する。

自己診断結果〔記憶〕			
不具合系統名			
インフレータ [断線]			
印刷			
	BACK	LIGHT	COPY

SHIA0020J

c. “故障履歴表示”を選択

- 自己診断結果で消去した診断結果（エアバッグセンサーユニットが記憶している異常箇所）を表示する。
- 故障履歴表示に記憶された部位は「記憶消去」できない。

故障履歴表示			
不具合系統名			
インフレータ [断線]			
印刷			
	BACK	LIGHT	COPY

SHIA0021J

7. 各診断モードの診断結果が表示される。

8. 印刷が必要な時は“印刷”をタッチする。

9. 各診断結果をもとに異常箇所を修理又は交換する。

注意： キースイッチを OFF にして、バッテリーマイナス端子を外してから 3 分以上放置後、作業を行うこと。

自己診断結果			
不具合系統名			
インフレータ [断線]			
記憶消去		印刷	
MODE	BACK	LIGHT	COPY

SHIA0022J

故障診断

10. 異常箇所を修理後、“自己診断結果”をタッチし「異常なし」の表示を確認する。
 - 表示を確認後、“記憶消去”をタッチする。
 - 異常が表示された場合は再度、診断結果をもとに異常箇所を修理又は交換する。
11. 一度、「診断モード選択」画面に戻し、“自己診断結果〔記憶〕”をタッチする。

自己診断結果

不具合系統名

異常なし

記憶消去 印刷

MODE BACK LIGHT COPY

SHIA0023J

12. 「自己診断結果〔記憶〕」画面に「異常なし」と表示していることを確認する。
 - 異常が表示された場合は再度、「自己診断結果」画面で“記憶消去”をタッチし、表示を確認する。

自己診断結果〔記憶〕

不具合系統名

異常なし

印刷

BACK LIGHT COPY

SHIA0024J

13. キースイッチを OFF にして CONSULT- II を外す。
14. キースイッチを ON にして SRS エアバッグ警告灯（ユーザーモード）でシステムの点検を行う。
15. 異常が無いことを確認し、診断を終了する。

診断手順 2

警告灯（ユーザーモード）では故障表示するが、CONSULT- II 「自己診断結果」では故障表示しない場合、以下を実行する。

- 自己診断結果の「記憶消去」を行う。
- 自己診断結果〔記憶〕、故障履歴診断を行う。その後、「[診断手順 3](#)」(SRS-13 ページ) へ。
- バッテリー電圧が 9V 以上あるか点検する。9V 以下の場合、バッテリーを充電する。

診断手順 3

- CONSULT- II “自己診断結果〔記憶〕”を選択し、表示された異常箇所の修理又は交換を行う。
- 「自己診断結果〔記憶〕」で異常表示が無い場合は CONSULT- II “故障履歴表示”を選択し、表示された異常箇所の修理又は交換を行う。

自己診断結果〔記憶〕

不具合系統名

インフレーター [断線]

印刷

BACK LIGHT COPY

SHIA0020J

自己診断表

注意：自己診断結果，自己診断結果〔記憶〕及び故障履歴表示は、同じ画面を表示する。

- 整備内容は、各項目の順に実施する。各項目を実施するたびに正常か異常かを確認し、正常に復帰した場合、残りの項目は実施しなくても良い。
- 修理完了後は、必ず記憶消去を実行し、再度 CONSULT- II で確認すること。

故障診断

自己診断項目	異常検出条件		整備内容
正常	ユーザーモードでエアバッグ警灯灯による故障表示	- 故障修理後、自己診断結果〔記憶〕の、修理前の診断結果が消されていない - 過去に間欠故障が起きていた	『診断手順 2』(SRS-13 ページ)、『診断手順 3』(SRS-13 ページ) を参照
	・ システム正常		—
インフレーター [断線] 又は運転席インフレーター [断線]	・ 運転席エアバッグモジュールインフレーター回路断線（スパイラルケーブルを含む）		- ハーネス及びコネクタの接続状態点検 - スパイラルケーブル導通点検を行う『スパイラルケーブルの点検』(SRS-24 ページ) を参照 - 運転席エアバッグモジュール交換（処分する前に展開する） - エアバッグセンサーユニット交換 - ハーネス不良
インフレーター [電源短絡] 又は運転席インフレーター [電源短絡]	・ 運転席エアバッグモジュールインフレーター回路電源回路との短絡（スパイラルケーブルを含む）		
インフレーター [GND 短絡] 又は 運転席インフレーター [GND 短絡]	・ 運転席エアバッグモジュールインフレーター回路アース回路との短絡（スパイラルケーブルを含む）		
インフレーター [線間短絡] 又は運転席インフレーター [線間短絡]	・ 運転席エアバッグモジュールインフレーター回路線間短絡（スパイラルケーブルを含む）		
助手席インフレーター [電源短絡]	・ 助手席エアバッグインフレーター回路電源回路との短絡		- ハーネス及びコネクタの接続状態点検 - 助手席エアバッグモジュール交換（処分する前に展開する） - エアバッグセンサーユニット交換 - ハーネス不良
助手席インフレーター [断線]	・ 助手席エアバッグインフレーター回路断線		
助手席インフレーター [GND 短絡]	・ 助手席エアバッグインフレーター回路アース回路との短絡		
助手席インフレーター [線間短絡]	・ 助手席エアバッグインフレーター回路線間短絡		
右側サイドエアバッグ [断線]	・ 運転席サイドエアバッグ回路断線		- ハーネス及びコネクタの接続状態点検 - 運転席サイドエアバッグモジュール交換（処分する前に展開する） - エアバッグセンサーユニット交換 - ハーネス不良
右側サイドエアバッグ [電源短絡]	・ 運転席サイドエアバッグ回路電源回路との短絡		
右側サイドエアバッグ [GND 短絡]	・ 運転席サイドエアバッグ回路アース回路との短絡		
右側サイドエアバッグ [線間短絡]	・ 運転席サイドエアバッグ回路線間短絡		
左側サイドエアバッグ [断線]	・ 助手席サイドエアバッグ回路断線		- ハーネス及びコネクタの接続状態点検 - 助手席サイドエアバッグモジュール交換（処分する前に展開する） - エアバッグセンサーユニット交換 - ハーネス不良
左側サイドエアバッグ [電源短絡]	・ 助手席サイドエアバッグ回路電源回路との短絡		
左側サイドエアバッグ [GND 短絡]	・ 助手席サイドエアバッグ回路アース回路との短絡		
左側サイドエアバッグ [線間短絡]	・ 助手席サイドエアバッグ回路線間短絡		
右側サテライトセンサ [故障]	- 運転席側サテライトセンサー故障 - エアバッグセンサーユニット故障 - エアバッグセンサーユニットから運転席側サテライトセンサー間のハーネス不良		- 運転席側サテライトセンサーのコネクタ-接続状態点検 - 運転席側サテライトセンサー交換 - エアバッグセンサーユニット交換 - ハーネス不良
右側サテライトセンサ [通信異常]			
左側サテライトセンサ [故障]	- 助手席側サテライトセンサー故障 - エアバッグセンサーユニット故障 - エアバッグセンサーユニットから助手席側サテライトセンサー間のハーネス不良		- 助手席側サテライトセンサーのコネクタ-接続状態点検 - 助手席側サテライトセンサー交換 - エアバッグセンサーユニット交換 - ハーネス不良
左側サテライトセンサ [通信異常]			

故障診断

自己診断項目	異常検出条件	整備内容
右前席プリテンショナー [断線]	運転席プリテンショナーシートベルト回路断線または、電源回路との短絡	- ハーネス及びコネクタ接続状態点検 - 運転席プリテンショナーシートベルト交換 - エアバッグセンサーユニット交換 - ハーネス不良
右前席プリテンショナー [電源短絡]		
右前席プリテンショナー [GND 短絡]	運転席プリテンショナーシートベルト回路アース回路との短絡	- ハーネス及びコネクタ接続状態点検 - 助手席プリテンショナーシートベルト交換 - エアバッグセンサーユニット交換 - ハーネス不良
左前席プリテンショナー [断線]	助手席プリテンショナーシートベルト回路断線または、電源回路との短絡	- ハーネス及びコネクタ接続状態点検 - 助手席プリテンショナーシートベルト交換 - エアバッグセンサーユニット交換 - ハーネス不良
左前席プリテンショナー [電源短絡]		
左前席プリテンショナー [GND 短絡]	助手席プリテンショナーシートベルト回路アース回路との短絡	- ハーネス及びコネクタ接続状態点検 - 助手席プリテンショナーシートベルト交換 - エアバッグセンサーユニット交換 - ハーネス不良
コントロールユニット	エアバッグセンサーユニット故障	- ハーネス及びコネクタ接続状態点検 - 助手席プリテンショナーシートベルト交換 - エアバッグセンサーユニット交換 - ハーネス不良

故障診断要領（CONSULT- II を使用しない場合）

JHS0008S

診断手順 1

エアバッグ警告灯を使用して SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステムの不具合箇所を診断する。

注意： ユーザーモードは故障がなければ故障状態モードには切り替えられない。

- キースイッチを OFF→ON にする。
- SRS エアバッグ警告灯が 7 秒間点灯し、消灯した後 1 秒間以内にキースイッチを OFF にする。
- キースイッチ OFF 後 3 秒以上待つ。
- 上記 1 から 3 の操作を 3 回繰り返す。
- 再度、キースイッチを ON にする、警告灯は故障状態モードで点滅する。
- 警告灯の点滅回数で異常箇所を表示する。
- キースイッチを OFF し、バッテリーマイナス端子を外す。
- 警告灯表示結果を基に異常箇所を修理又は交換する。
- 修理作業完了後、バッテリーを接続し、キースイッチを ON にする。
- 故障状態モードでシステムの正常を確認し、キースイッチを一度 OFF にした後、再度 ON にするとユーザーモードに切り換わり、診断記憶は、消去される。

SRS

故障診断

SRS エアバッグ警告灯故障状態モード表示

故障修理が終わる毎に SRS エアバッグ警告灯又は、CONSULT- II を使用して異常がないか確認する。故障がまだ診断されてるのならば、次に進む。故障が修理されているなら、その後の作業は必要ない。

〈正常・修理後、診断結果が消去されていない〉	
点滅表示 a から b を繰り返す	整備内容 1. 記憶消去を行う
PHIA04531	
〈運転席エアバッグモジュールインフレーター〉	
点滅表示 a から d を繰り返す d 一点滅 2 回で運転席エアバッグモジュール不良を示す	整備内容 1. ハーネス及びコネクター接続不良 2. スパイラルケーブル導通点検 3. 運転席エアバッグモジュール交換 (廃却する前に展開する) 4. エアバッグセンサーユニット交換 5. ハーネス不良
SHIA0027J	
〈エアバッグセンサーユニット〉	
点滅表示 a から d を繰り返す d 一点滅 7 回でエアバッグセンサーユニット不良を示す	整備内容 1. ハーネス及びコネクター接続不良 2. エアバッグセンサーユニット交換 3. ハーネス不良
SHIA0028J	
〈助手席エアバッグモジュールインフレーター〉	
点滅表示 a から d を繰り返す d 一点滅 8 回で助手席エアバッグモジュール不良を示す	整備内容 1. ハーネス及びコネクター接続不良 2. 助手席エアバッグモジュール交換 (廃却する前に展開する) 3. エアバッグセンサーユニット交換 4. ハーネス不良
SHIA0029J	

故障診断

〈右席プリテンショナーシートベルト〉	
点滅表示 aからdを繰り返す d—点滅1回で右席プリテンショナーシートベルト不良を示す	整備内容 1. ハーネス及びコネクター接続不良 2. 右席プリテンショナーシートベルト交換 (廃却する前に展開する) 3. エアバッグセンサーユニット交換 4. ハーネス不良
PHIA0454J	
〈左席プリテンショナーシートベルト〉	
点滅表示 aからdを繰り返す d—点滅3回で左席プリテンショナーシートベルト不良を示す	整備内容 1. ハーネス及びコネクター接続不良 2. 左席プリテンショナーシートベルト交換 (廃却する前に展開する) 3. エアバッグセンサーユニット交換 4. ハーネス不良
PHIA0455J	
〈右席サテライトセンサー〉	
点滅表示 aからfを繰り返す f—点滅3回で右席サテライトセンサー不良を示す	整備内容 1. ハーネス及びコネクター接続不良 2. 右席サテライトセンサー交換 3. エアバッグセンサーユニット交換 4. ハーネス不良
PHIA0456J	
〈左席サテライトセンサー〉	
点滅表示 aからfを繰り返す f—点滅4回で左席サテライトセンサー不良を示す	整備内容 1. ハーネス及びコネクター接続不良 2. 左席サテライトセンサー交換 3. エアバッグセンサーユニット交換 4. ハーネス不良
PHIA0457J	
〈右席サイドエアバッグモジュール〉	
点滅表示 aからfを繰り返す f—点滅1回で右席サイドエアバッグモジュール不良を示す	整備内容 1. ハーネス及びコネクター接続不良 2. 右席サイドエアバッグモジュール交換 (廃却する前に展開する) 3. エアバッグセンサーユニット交換 4. ハーネス不良
SHIA0034J	

故障診断

〈左席サイドエアバッグモジュール〉	
点滅表示	整備内容
a から f を繰り返す f 一点滅 2 回で左席サイドエアバッグモジュール不良を示す	1. ハーネス及びコネクター接続不良 2. 左席サイドエアバッグモジュール交換 (廃却する前に展開する) 3. エアバッグセンサーユニット交換 4. ハーネス不良
SHIA0035J	

現象別故障診断早見表

JHS0008T

現象	不具合経路	推定不具合箇所
SRS エアバッグ警告灯が点灯しない (他の警告灯類は点灯)	SRS エアバッグ警告灯回路	- 警告灯及びコンビネーションメーター内部回路不良 - エアバッグセンサーユニット～コンビネーションメーター間ハーネス不良 (短絡)
	エアバッグセンサーユニット内部	エアバッグセンサーユニット不良。
SRS エアバッグ警告灯が消灯しない (常時点灯)	エアバッグ電源回路	- エアバッグ電源ヒューズ切れ - ハーネス又はコネクター接続不良 - エアバッグ電源ハーネス不良
	SRS エアバッグ警告灯回路	- ハーネス又はコネクター接続不良 - コンビネーションメーター～エアバッグセンサーユニット間ハーネス不良 (断線) - コンビネーションメーター内部回路不良
	エアバッグセンサーユニット内部	エアバッグセンサーユニット不良。
SRS エアバッグ警告灯が点滅する	- バッテリー電圧の低下。(約 9V 以下) - CONSULT- II による診断 (自己診断、故障履歴診断) 又は、CONSULT- II を使わない診断 (自己診断) によるシステム診断を実施し、不具合箇所を修理する - 不具合箇所修理後故障記憶を消去する	

注意: バッテリー電圧の低下により、SRS エアバッグ警告灯が点滅の場合、自己診断のユーザーモードから故障状態モードへの切り換えはできない。また、CONSULT- II による診断では「異常なし」と表示される。

運転席エアバッグモジュール

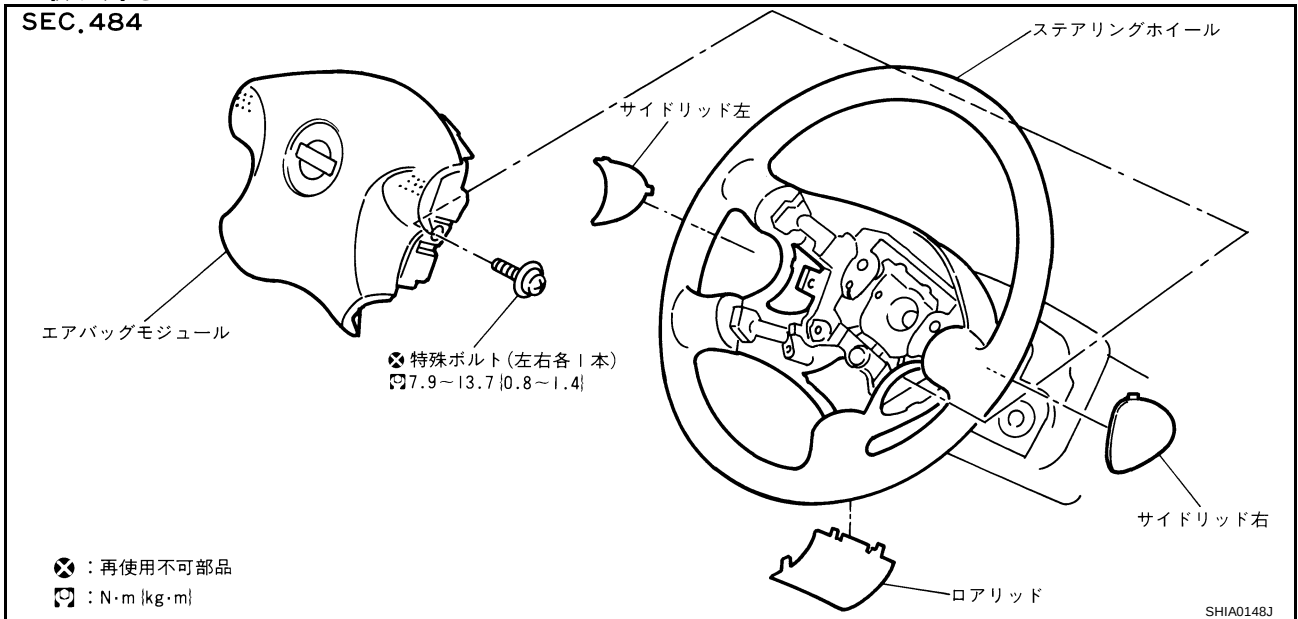
PDF:K8510

4 本スポークステアリングホイールの取り外し、取り付け

JHS0008U

取り外し

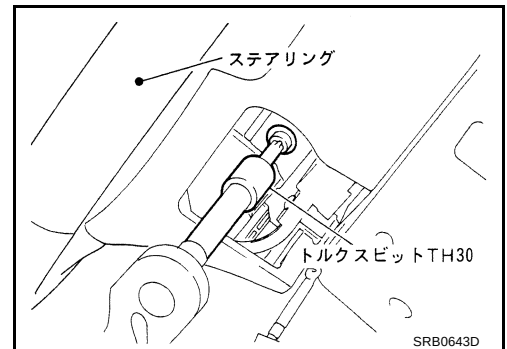
SEC.484



注意：・取外作業は、キースイッチ OFF でバッテリーマイナス端子を外し、3分以上放置後に行うこと。

・取り外し作業は、エアバッグ正面を避け、側面で行うこと。

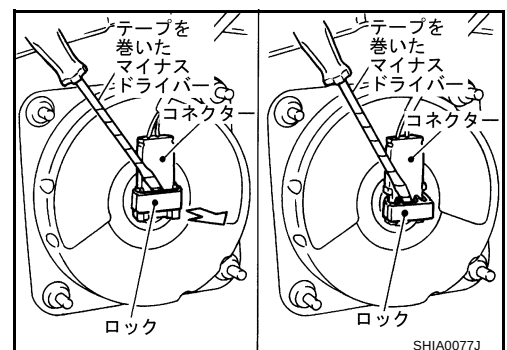
1. サイドリッドを外し、トルクスビット TH30 を使用して左右の特殊ボルトを外しエアバッグモジュールを外す。
2. ロアリッドを外す。



3. エアバッグハーネスコネクタを外し、エアバッグモジュールを取り外す。

注意：・エアバッグハーネスコネクタの脱着は、テープを巻いたマイナスドライバーをロック部に差し込み、ロックを引き上げてコネクタを取り外す。

・コネクタの取り付けは、ロックを引き上げた状態で取り付け、ロックを押し込む。



注意：・運転席エアバッグモジュールを単品で置くときはパッド面を上にして置くこと。

- ・エアバッグモジュールのコネクタに、ドライバー等の異物の差し込みはしないこと。(静電気による作動防止)
- ・エアバッグモジュールは非分解のため、インフレーターを取り外しはしないこと。
- ・特殊ボルトは再使用不可部品のため、新品に交換すること。
- ・エアバッグモジュールに落下等による衝撃を与えないこと。衝撃を与えた場合、交換となる。

運転席エアバッグモジュール

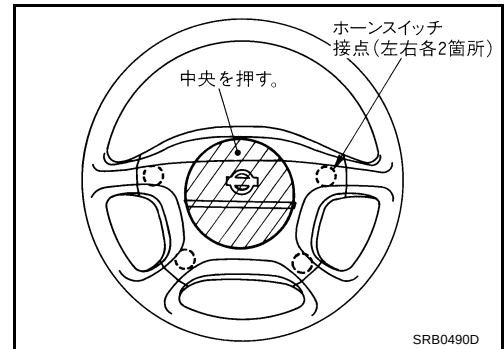
- エアバッグモジュールは 90℃以上の高温になる所に置かないこと。
- エアバッグモジュールにオイル、グリース、洗浄油、水等を付着させないこと。

取り付け

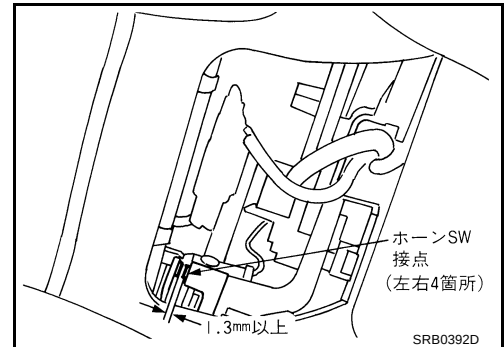
注意: • 取付作業は、キースイッチ OFF でバッテリーマイナス端子を外し、3 分以上放置後に行うこと。

- 取付作業は、エアバッグ正面を避け、側面で行うこと。

1. エアバッグモジュールコネクタを接続する。
2. 新しい特殊ボルトを使用してエアバッグモジュールを取り付ける。
 - エアバッグモジュールの取り付けは、ホーンパットの中心部を押し付けホーンスイッチの接点（左右 2 箇所）を ON 状態にして、特殊ボルトを締め付けること。



- エアバッグモジュール取付後、ホーンスイッチの接点クリアランスが図の規定の寸法にあるか確認すること。

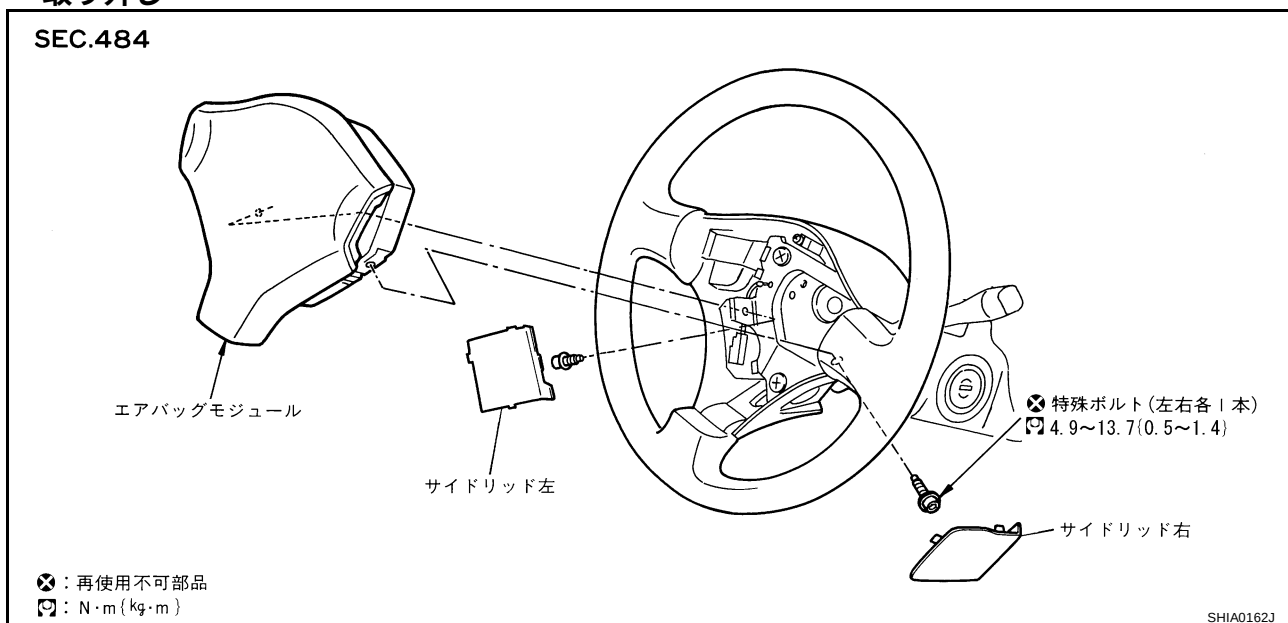


3. サイド、ロアリッドを取り付ける。
4. バッテリーマイナス端子を接続する。
5. 作業終了後 SRS エアバッグ警告灯、CONSULT-II により、システムが正常か異常かを確認すること。
6. 作業終了後 SRS エアバッグ警告灯により、システムが正常か異常かを確認する。
7. SRS エアバッグ警告灯が異常を表示した場合、自己診断機能によるリセット操作及び CONSULT-II で記憶消去を行うこと。
8. 上記操作を行っても SRS エアバッグ警告灯が異常を表示する場合、**「故障診断」(SRS-6 ページ)** を実施し、異常箇所を修理すること。

3 本スポークステアリングホイールの取り外し、取り付け

取り外し

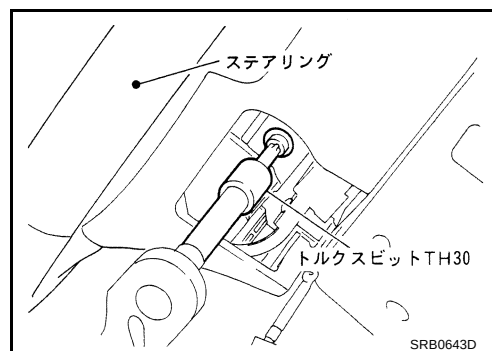
SEC.484



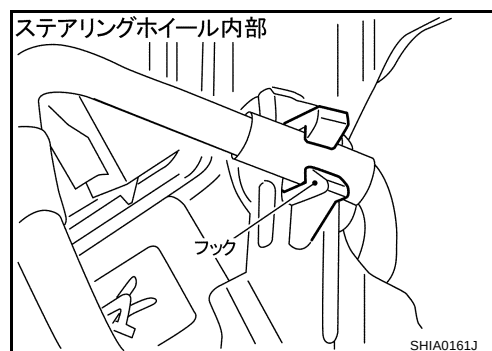
注意: ・ 取外作業は、キースイッチ OFF でバッテリーマイナス端子を外し、3 分以上放置後に行うこと。

・ 取外作業は、エアバッグ正面を避け、側面で行うこと。

1. サイドリッドを外し、トルクスビット TH30 を使用して左右の特殊ボルトを外しエアバッグモジュールを外す。



2. エアバッグハーネスをフックから外す。

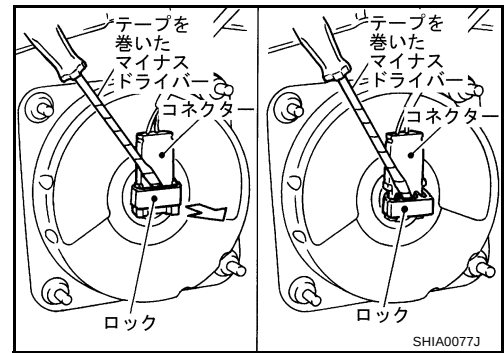


運転席エアバッグモジュール

3. エアバッグハーネスコネクタを外し、エアバッグモジュールを取り外す。

注意：・エアバッグハーネスコネクタの脱着は、テープを巻いたマイナスドライバーをロック部に差し込み、ロックを引き上げてコネクタを取り外す。

・コネクタの取り付けは、ロックを引き上げた状態で取り付け、ロックを押し込む。



注意：・運転席エアバッグモジュールを単品で置くときはパッド面を上にして置くこと。

- ・エアバッグモジュールのコネクタに、ドライバー等の異物の差し込みはしないこと。(静電気による作動防止)
- ・エアバッグモジュールは非分解のため、インフレーターを取り外しはしないこと。
- ・特殊ボルトは再使用不可部品のため、新品に交換すること。
- ・エアバッグモジュールに落下等による衝撃を与えないこと。衝撃を与えた場合、交換となる。
- ・エアバッグモジュールは 90℃以上の高温になる所に置かないこと。
- ・エアバッグモジュールにオイル、グリース、洗浄油、水等を付着させないこと。

取り付け

注意：・取付作業は、キースイッチ OFF でバッテリーマイナス端子を外し、3 分以上放置後に行うこと。

- ・取付作業は、エアバッグ正面を避け、側面で行うこと。

1. エアバッグハーネスをエアバッグハーネス固定用フックに固定し、エアバッグモジュールコネクタを接続する。

注意：ハーネスをフックに固定する際は、テープ巻き付け部を固定すること。

2. 新しい特殊ボルトを使用してエアバッグモジュールを取り付ける。
3. サイドリッド及びロアリッドを取り付ける。
4. バッテリーマイナス端子を接続する。
5. 作業終了後 SRS エアバッグ警告灯、CONSULT-II により、システムが正常か異常かを確認すること。
6. 作業終了後 SRS エアバッグ警告灯により、システムが正常か異常かを確認する。
7. SRS エアバッグ警告灯が異常を表示した場合、自己診断機能によるリセット操作及び CONSULT-II で記憶消去を行うこと。
8. 上記操作を行っても SRS エアバッグ警告灯が異常を表示する場合、**「故障診断」(SRS-6 ページ)**を実施し、異常箇所を修理すること。

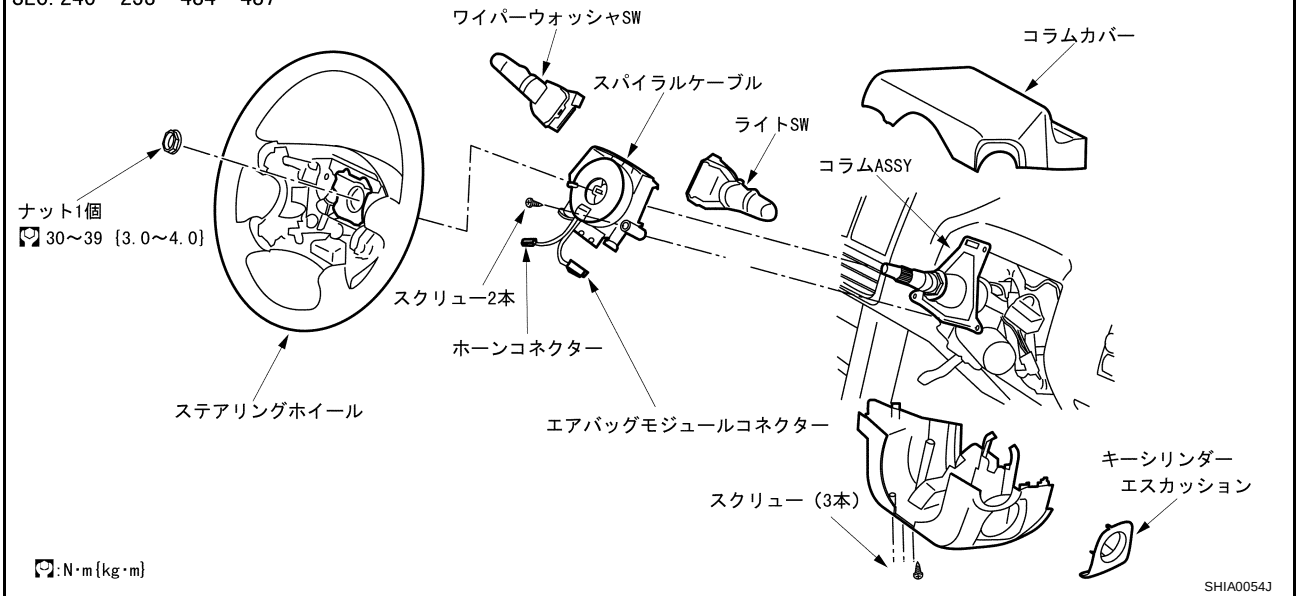
スパイラルケーブル

PF2:25554

取り外し、取り付け

JHS000A6

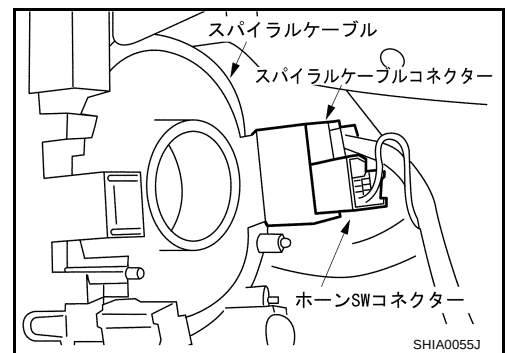
SEC. 240・253・484・487



取り外し

注意: ・ 取外作業は、キースイッチ OFF でバッテリーマイナス端子を外し、3 分以上放置後に行うこと。

1. ステアリングホイールを中立状態にする。
2. ホーンコネクターを取り外す。
3. ステアリングホイールを外す。
注意: ステアリングホイールを叩いたり、衝撃を与えたりしないこと。
4. ステアリングコラムカバーを外す。
5. ホーンスイッチコネクターを外してから、スパイラルケーブルコネクターを取り外す。
6. スクリューを 2 本外してスパイラルケーブルを外す。
注意: ・ スパイラルケーブルを分解しない。
・ スパイラルケーブルに油脂類を塗布しない。
7. スパイラルケーブルからワイパー・ウォッシャースイッチ、ライトスイッチを外す。

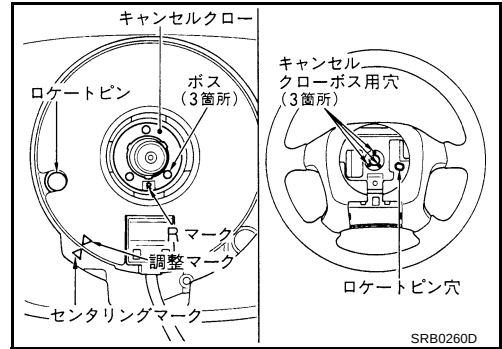


SRS

スパイラルケーブル

取り付け

- ステアリングホイールの取り付けは、前輪の向きが直進状態でキャンセルクロアの R マークを真下にし、ボス 3 箇所とステアリングホイール ASSY 裏側の穴 3 箇所を合わせて取り付ける。
- スパイラルケーブルが必ず中立位置にあることを確認する。
注意：
 - 不適當な位置に取り付けられると、スパイラルケーブルはステアリング操作により切れることがある。
 - 中立位置は、スパイラルケーブルを右回しに巻締まるまで軽く回し、次に逆回し（約 3.0 回転）をしてセンタリングマークと調整マークを合わせて止める。（サービス部品は中立位置を合わせた状態でストッパーで固定されているため、ストッパーを外したら、そのまま取付可能）
 - スパイラルケーブルをむやみに空回しさせないこと。また、巻締まり以上に回転させないこと。（ケーブル切れの原因となる）
- スパイラルケーブルコネクタ及びホーンスイッチコネクタを接続し、スパイラルケーブルを取り付け、コラムカバーを取り付ける。
- スパイラルケーブル左側のロケットピンとステアリングASSY裏側のロケットピン穴が一致する位置で取り付けること。
- ホーンコネクタを接続し、エアバッグモジュールコネクタを接続する。
- 作業終了後 SRS エアバッグ警告灯によりシステムが正常か異常かを確認すること。
- SRS エアバッグ警告灯が異常を表示した場合は、自己診断機能によるリセット操作及び CONSULT- II で記憶消去を行うこと。
- 上記操作を行っても SRS エアバッグ警告灯が異常を表示する場合、**「故障診断」(SRS-6 ページ)** を実施し、異常箇所を修理すること。



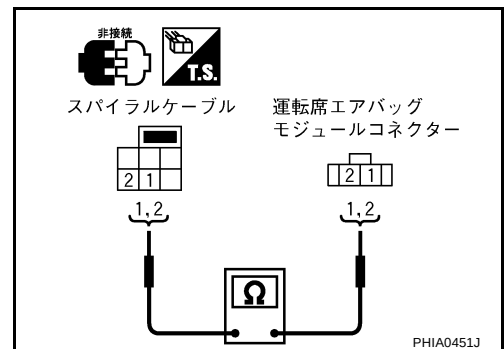
スパイラルケーブルの点検

JHS000A7

- 運転席エアバッグモジュールコネクタ及びスパイラルケーブルを外す。
- 各端子の導通を点検する。

運転席エアバッグモジュールコネクタ～スパイラルケーブル

- | | |
|-------------|-------|
| 1 番端子～1 番端子 | ：導通あり |
| 2 番端子～2 番端子 | ：導通あり |



助手席エアバッグモジュール

PF0:K8515

取り外し、取り付け

JHS0008X

取り外し

注意：・取り外し作業は、キースイッチ OFF でバッテリーマイナス端子を外し、3 分以上放置後に行うこと。

・取り外し作業は、エアバッグ正面を避け、側面で行うこと。

1. グローブボックスを外し、エアバッグコネクタをエアバッグハーネスから外す。
2. グローブボックスカバーを外す。「IP インストルメントパネル」の「**取り外し、取り付け**」(IP-5 ページ) を参照。

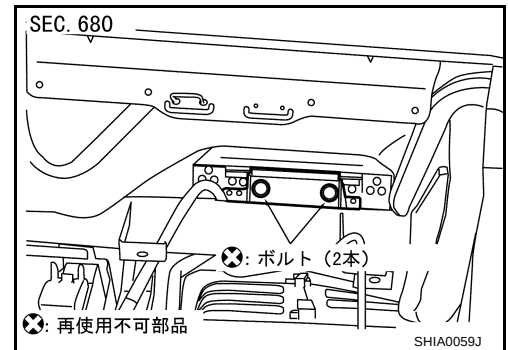
3. 取付ボルトを外す。

参考：取付ボルトは車両によって、2 種類のボルトが設定されている。

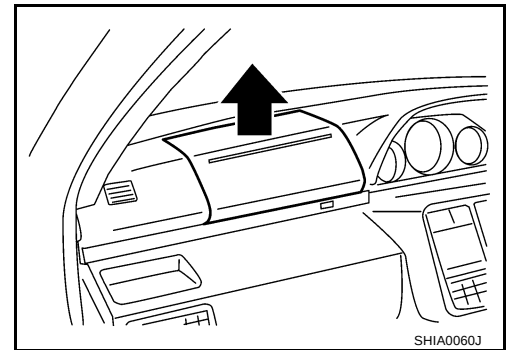
取付けボルト締め付けトルク

六角ボルト： 14.7 ～ 24.5 N・m {1.5 ～ 2.5 Kg・m}

特殊ボルト： 19.6 ～ 29.4 N・m {2.0 ～ 3.0 Kg・m}



4. インストルメントパネルからエアバッグモジュールを持ち上げて取り外す。



注意：・エアバッグモジュールを単品で置くときはパッド面を上にして置くこと。

- ・エアバッグモジュールのコネクタに、ドライバー等の異物の差し込みはしないこと。(静電気による作動防止)
- ・エアバッグモジュールは非分解のため、インフレーターを取り外しはしないこと。
- ・取付ボルトは再使用不可部品のため、新品に交換すること。
- ・エアバッグモジュールに落下等による衝撃を与えないこと。衝撃を与えた場合、交換となる。
- ・エアバッグモジュールは 90 °C 以上の高温になる所に置かないこと。
- ・エアバッグモジュールにオイル、グリース、洗浄油、水等を付着させないこと。

取り付け

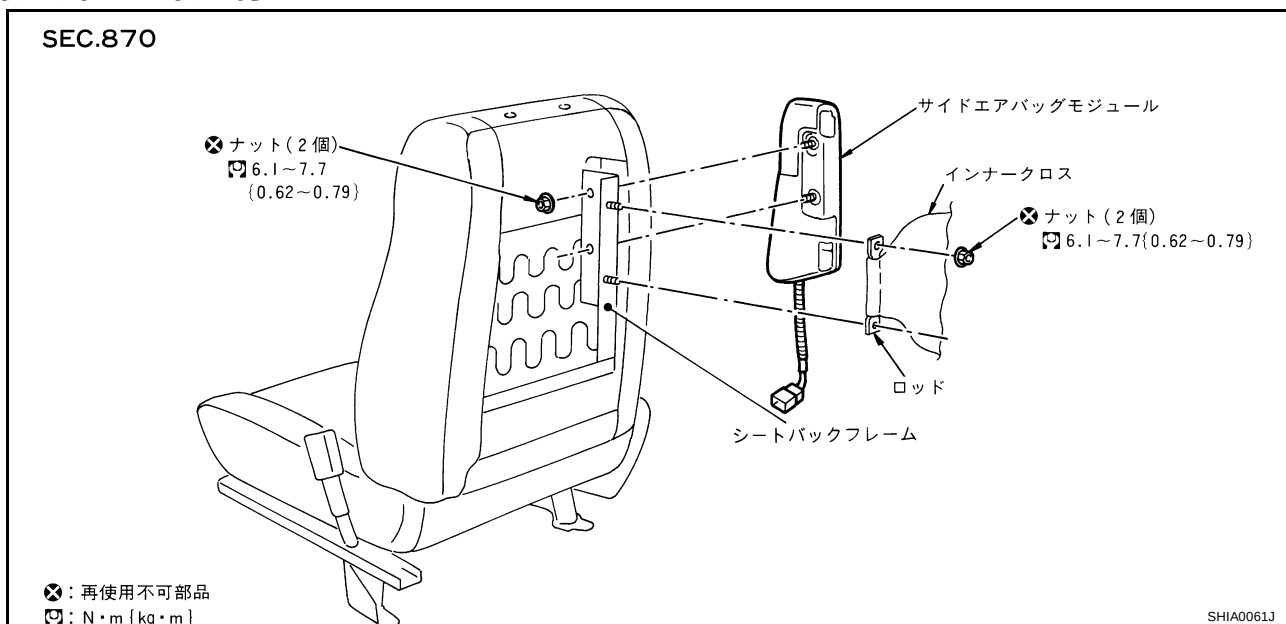
注意: ・ 取付作業は、エアバッグ正面を避け、側面で行うこと。

- ・ エアバッグモジュールとインストルメントとの合せ面に、隙間がなきこと。
- ・ 取付時、ハーネスのかみ込み、損傷等に十分注意すること。

1. ステアリングメンバーに助手席エアバッグモジュールを取り付ける。
2. グローブボックスを取り付ける。
3. エアバッグコネクタをエアバッグハーネスに接続する。
4. グローブボックスを閉める。
5. バッテリーマイナス端子を接続する。
6. 作業終了後 SRS エアバッグ警告灯により、システムが正常か異常かを確認すること。
7. SRS エアバッグ警告灯が異常を表示した場合、自己診断機能によるリセット操作及び CONSULT- II で記憶消去を行うこと。
8. 上記診断を行っても SRS エアバッグ警告灯が異常を表示する場合、[「故障診断」\(SRS-6 ページ\)](#) を実施し、異常を修理すること。

前席サイドエアバッグモジュール

取り外し、取り付け



取り外し

注意: ・ 取り外し作業は、キースイッチ OFF でバッテリーマイナス端子を外し、3 分以上放置後に行うこと。

- ・ 取り外し作業は、エアバッグ正面を避け、後面で行うこと。
- ・ エアバッグハーネスを傷つけないように注意する。

1. シートバッグトリムを、めくり上げる。
2. サイドエアバッグモジュールをカバーしているインナークロスを取り外す。
3. サイドエアバッグモジュールを取り外す。
4. ハーネスクリップを取り外す。

注意: ・ 前席サイドエアバッグモジュールは、スタッドボルト側を下にして立てて置くこと。

- ・ エアバッグモジュールのコネクターに、ドライバー等の異物の差し込みはしないこと。(静電気による作動防止)
- ・ エアバッグモジュールは非分解のため、インフレーターを取り外しはしないこと。
- ・ エアバッグモジュールに落下等による衝撃を与えないこと。衝撃を与えた場合、交換となる。
- ・ エアバッグモジュールは 90 °C 以上の高温になる所に置かないこと。
- ・ エアバッグモジュールにオイル、グリース、洗浄油、水等を付着させないこと。

取り付け

注意: ・ 取付作業は、キースイッチ OFF でバッテリーマイナス端子を外し、3 分以上放置後に行うこと。

- ・ 取付作業は、エアバッグ正面を避け、後面で行うこと。
- ・ エアバッグハーネスを傷つけないように注意する。

1. エアバッグモジュールを取り付ける。
2. エアバッグモジュールのハーネスクリップをしっかり取り付ける。
3. サイドエアバッグモジュールをカバーしているインナークロスを取り付ける。
4. エアバッグコネクターを取り付ける。
5. シートバックトリムを取り付ける。
6. バッテリーマイナス端子を接続する。

前席サイドエアバッグモジュール

7. 作業終了後 SRS エアバッグ警告灯により、システムが正常か異常かを確認すること。
8. SRS エアバッグ警告灯が異常を表示した場合、自己診断機能によるリセット操作及び CONSULT- II で記憶消去を行うこと。
9. 上記操作を行っても SRS エアバッグ警告灯が異常を表示する場合、[「故障診断」\(SRS-6 ページ\)](#)を実施し、異常箇所を修理すること。

サテライトセンサー

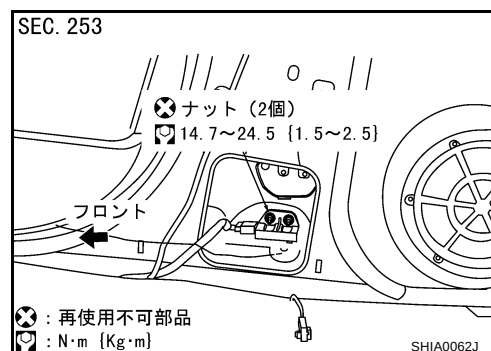
PFP:98830

取り外し、取り付け

JHS0008Z

取り外し

1. プリテンショナーシートベルトを取り外す。「SB シートベルト」
「フロントシートベルトの取り外し、取り付け」(SB-3 ページ)、
「EI 外装・内装」
「ボディーサイドトリム」(EI-27 ページ) を参照。
2. サテライトセンサーコネクタを外す。
3. サテライトセンサー取り付けナットを取り外す。



取り付け

- 取り付けは取り外しと逆の手順で行う。

注意： • 取外作業は、キースイッチ OFF でバッテリーマイナス端子を外し、3 分以上放置後に行うこと。

- サテライトセンサーの持ち運びに、ハーネスは持たないこと。
- 取付時、ハーネスのかみ込み、損傷等に十分注意すること。
- サテライトセンサーに落下等の衝撃を加えないこと。衝撃を加えた場合、サテライトセンサー交換となる。
- 作業終了後 SRS エアバッグ警告灯により、システムが正常か異常かを確認すること。
- SRS エアバッグ警告灯が異常を表示した場合、自己診断機能によるリセット操作及び CONSULT- II で記憶消去を行うこと。
- 上記操作を行っても SRS エアバッグ警告灯が異常を表示する場合、「故障診断」(SRS-6 ページ) を実施し、異常箇所を修理すること。
- 前席 SRS サイドエアバッグ作動時は必ず交換すること。

SRS

プリテンショナーシートベルト

PPF:86884

取り外し、取り付け

JHS00090

- 取り外し及び取付要領は、「SB シートベルト」[「フロントシートベルトの取り外し、取り付け」\(SB-3 ページ\)](#)を参照すること。

エアバッグセンサーユニット

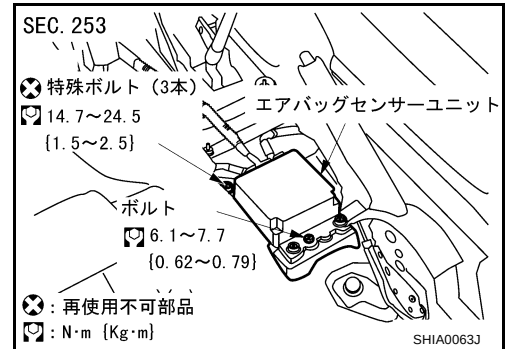
PFP:28556

取り外し、取り付け

JHS00091

取り外し

1. エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトの各ハーネスコネクタを外す。
2. センターコンソールを取り外す。「IP インstrumentパネル」[「取り外し、取り付け」\(IP-5 ページ\)](#) 参照。
3. エアバッグセンサーユニットコネクタを取り外す。
4. 特殊ボルトの取り外しは、特殊工具（トルクスビット及びビットホルダー）を使用する。



取り付け

- 取り付けは取り外しと逆の手順で行う。

注意：• 取外作業は、キースイッチ OFF でバッテリーマイナス端子を外し、3 分以上放置後に行うこと。

- 取り外し及び取付作業に、エアツール及び電動ツールは使用しないこと。
- 特殊ボルトは再使用不可部品のため、新品に交換すること。
- 作業終了後 SRS エアバッグ警告灯によりシステムが正常か異常かを確認すること。
- SRS エアバッグ警告灯が異常表示した場合、自己診断機能によるリセット操作及び CONSULT- II で記憶消去操作を行うこと。
- 上記操作を行っても SRS エアバッグ警告灯が異常を表示した場合、[「故障診断」\(SRS-6 ページ\)](#) を実施し、異常箇所を修理すること。
- SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトが作動した場合、必ず交換すること。

エアバッグセンサーユニット識別番号

エアバッグセンサーユニット交換後、コントロールユニット識別番号を確認する。

仕様	C/U 識別番号
両席エアバッグ、プリテンショナーシートベルト付車	AA12
両席エアバッグ、プリテンショナーシートベルト、サイドエアバッグ付車	AA01

SRS

エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトの廃却処理

PF0:00014

JHS00092

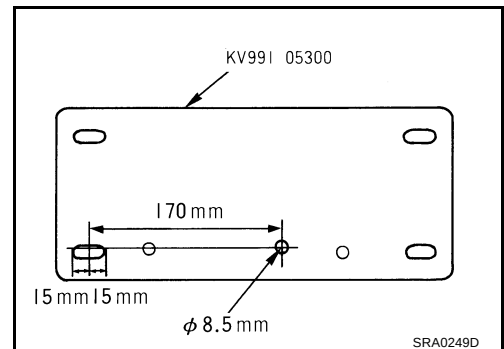
作業上の注意

- エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトの廃却及び車両の廃車時は、必ずエアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトを作動させること。作動したエアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトの廃却は「[廃却方法](#)」(SRS-36 ページ) に従って処理すること。
- 作動の際はエアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトの周囲 5m 以内に人がいないことを確認後、作動させること。
- 作動の際に発する作動音はかなり大きなものなので、音に対する予告を周囲に行うこと。住宅地（繁華街）での作動は極力避けること。作動の瞬間及び作動後しばらくは、かなりの煙が発生するので、換気の良い場所で行うこと。また、火災感知器、煙感知器等の近くでの作業は避けること。
- 作動したエアバッグモジュール、プリテンショナーシートベルトは非常に高温になっているため運転席及び助手席エアバッグモジュールは 30 分以上、プリテンショナーシートベルトは 10 分以上、サイドエアバッグモジュールは 1 ～ 2 分以上放置する。
- 作動したエアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトの取り扱いは、手袋を着用すること。
(絶対に素手でさわらないこと)
- 作動後のエアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトには絶対に水などをかけないこと。
- 作業終了時は必ず手を洗うこと。
- 車載上でエアバッグモジュール、プリテンショナーシートベルトを展開させる場合は、車の周囲 6m 以上のスペースがある場所で行う。
- 容量が十分なバッテリーを用意する。
- 展開していないエアバッグモジュールおよびプリテンショナーシートベルトは廃却しない。

エアバッグモジュール（単体処理）

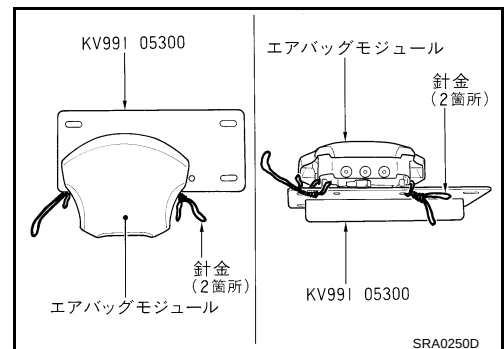
運転席エアバッグモジュール

- 容量が十分なバッテリーを用意する。
- エアバッグ固定用ブラケット(特殊工具)に $\phi 8.5\text{mm}$ の穴を開ける。



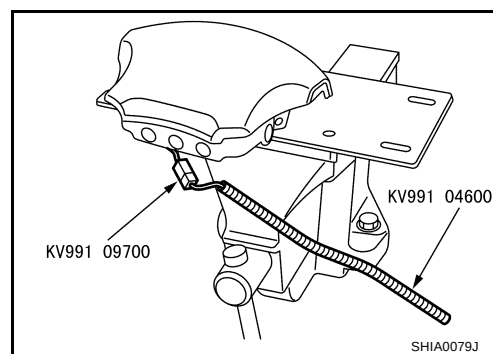
- エアバッグモジュール取付穴を利用し、針金で固定用ブラケット(特殊工具)にしっかりと固定する。

注意：針金は $\phi 1\text{mm}$ 以上のものを使用すること。



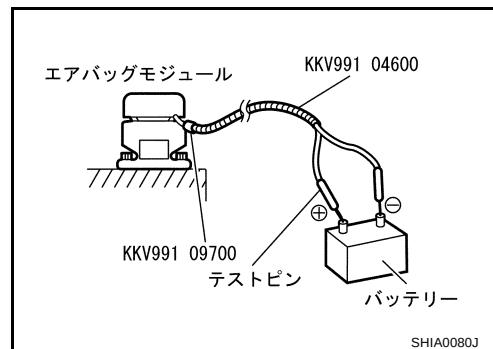
エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトの廃却処理

4. 固定用ブラケット（特殊工具）を万力に固定する。
5. 変換コネクタ（特殊工具）をディプロイメントツール（特殊工具）とエアバッグモジュールのコネクタに接続する。



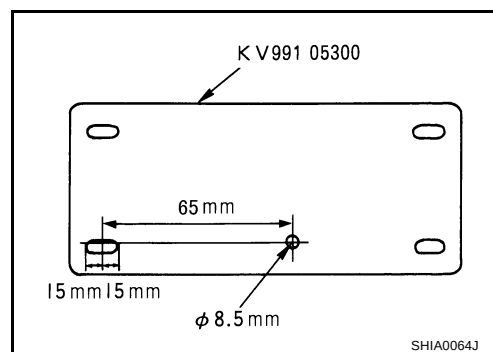
6. バッテリーマイナス端子にテストピンを接続し、作動させる。

注意：エアバッグモジュールから半径5m以内に人がいないことを確認し、作動の合図をしてから作動させること。



助手席エアバッグモジュール

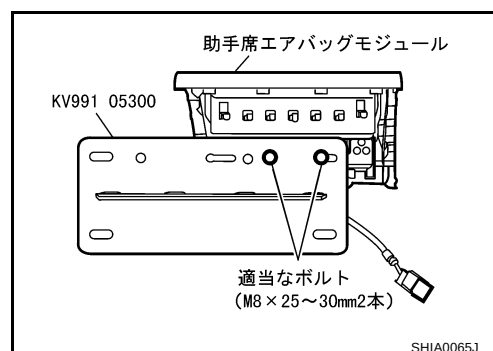
1. 容量が十分なバッテリーを用意する。
2. エアバッグ固定用ブラケット（特殊工具）にφ8.5mmの穴を開ける。
3. 固定用ブラケット（特殊工具）を万力に固定する。



4. 固定用ブラケット（特殊工具）穴と、エアバッグモジュール穴（2箇所）をボルト（M8×25～30mm）で固定する。

注意：エアバッグモジュールと固定用ブラケットとの間にすき間が出た場合、木片等を使用し、安定性を高めること。

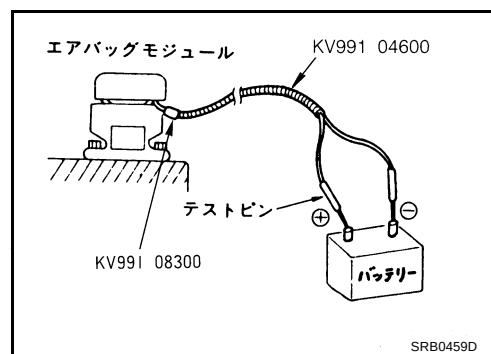
5. 変換コネクタ（特殊工具）をディプロイメントツール（特殊工具）とエアバッグモジュールのコネクタに接続する。



エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトの廃却処理

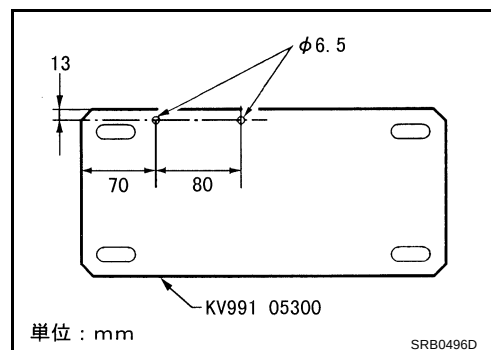
6. バッテリーの端子にテストピンを接続し、作動させる。

注意：エアバッグモジュールから半径5m以内に人がいないことを確認し、作動の合図をしてから作動させること。

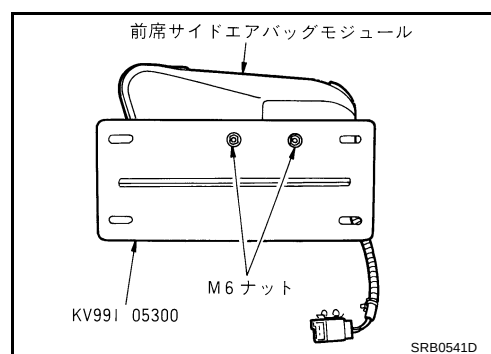


前席サイドエアバッグモジュール

1. 容量が十分なバッテリーを用意する。
2. エアバッグ固定用ブラケット(特殊工具)に $\phi 6.5\text{mm}$ の穴を開ける。
3. 固定用ブラケット(特殊工具)を万力に固定する。



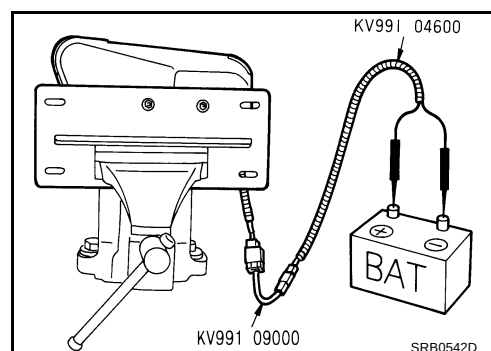
4. エアバッグ固定用ブラケット(特殊工具)穴にエアバッグモジュールのスタッドボルトを通し、適当なナットで固定する。



5. 変換コネクタ(特殊工具)をディプロイメントツール(特殊工具)とエアバッグモジュールのコネクタに接続する。

6. バッテリー端子にテストピンを接続し、作動させる。

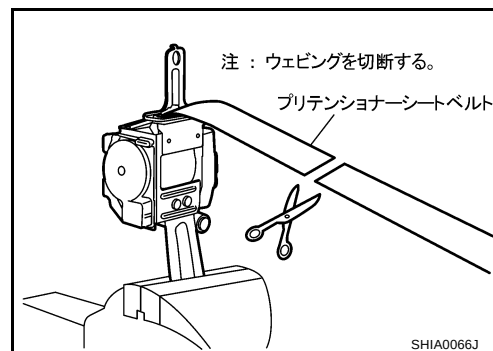
注意：エアバッグモジュールから半径5m以内に人がいないことを確認し、作動の合図をしてから作動させること。



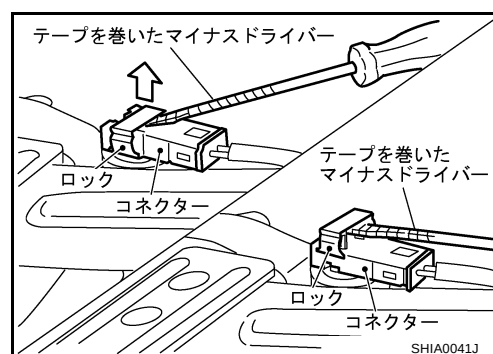
エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトの廃却処理

プリテンショナーシートベルト（単体処理）

1. 容量が十分なバッテリーを用意する。
2. プリテンショナーシートベルトを万力に固定する。
3. ウエビングを切断し、ショルダーアンカー及びブラケットを取り除く。
4. 変換コネクタ（特殊工具）をディプロイメントツール（特殊工具）とプリテンショナーシートベルトのコネクタに接続する。

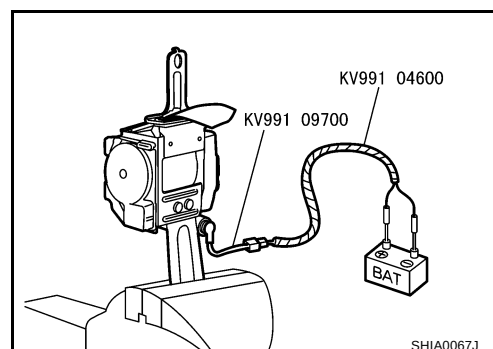


- 注意：**
- ・ プリテンショナーシートベルトコネクタの脱着は、テープを巻いたマイナスドライバーをロック部に差し込み、ロックを引き上げてコネクタを取り外す。
 - ・ コネクタの取り付けは、ロックを引き上げた状態で取り付け、ロックを押し込む。



5. バッテリー端子にテストピンを接続し、作動させる。

- 注意：** プリテンショナーシートベルトから半径5m以内に人がいないことを確認し、作動の合図をしてから作動させること。



車載上の処理

- ・ 車両廃車時、全てのエアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトを車載状態にてディプロイメントツール（特殊工具）及び変換コネクタ（特殊工具）を使用して強制作動させ、作動後車両より取り外し、ビニール袋に密閉して廃却する。

- 注意：**
- ・ 前席サイドエアバッグモジュールは、シートクッション下側のサブハーネスのコネクタに変換コネクタ（特殊工具）及びディプロイメントツール（特殊工具）を接続して行う。
 - ・ エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトを展開させるときは、車両の中に人がいないことを確認する。
 - ・ 同時に複数のエアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトを展開しない。

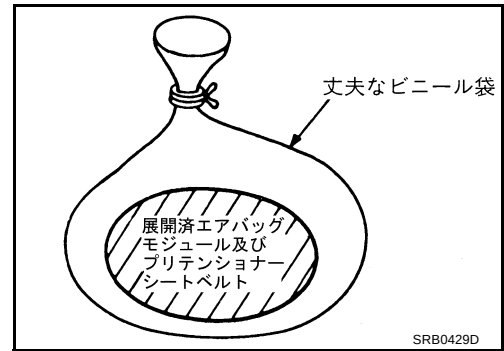
エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトの廃却処理

廃却方法

作動した運転席及び助手席エアバッグモジュール、プリテンショナーシートベルトは非常に高温になっているため運転席及び助手席エアバッグモジュールは 30 分以上、プリテンショナーシートベルトは 10 分以上放置した後、丈夫なビニール袋に密閉して廃却する。また、サイドエアバッグモジュールは 1 ～ 2 分放置した後、丈夫なビニール袋に密閉して廃却すること。

注意：・ 作動後のエアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトには絶対に水などをかけないこと。

- ・ 作動したエアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトの取り扱い、手袋を着用すること。（絶対に素手でさわらないこと）
- ・ 作動の瞬間及び作動後しばらくは、かなりの煙が発生するので、換気の良い場所で行うこと。また、火災感知器、煙感知器等の近くでの作業は避けること。発生ガスは無害であるがむせるので吸わないようにすること。
- ・ エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトは分解しないこと。
- ・ 作動後のエアバッグモジュール、プリテンショナーシートベルト、サテライトセンサー及びエアバッグセンサーユニットは再使用不可である。
- ・ 作業終了時は必ず手を洗うこと。



事故後処理

事故後処理

前面衝突時の処理

SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトの処理は下記の手順で行う。

SRS エアバッグが展開した場合（サイドエアバッグを除く）

1. エアバッグセンサーユニットを交換する。
2. エアバッグモジュール（サイドエアバッグを除く）及びプリテンショナーシートベルトを取り外す。
3. 構成部品を下記の表を使用して点検する。
 - ・ 構成部品を目視点検し損傷がある場合は交換する。（へこみ、ひび及び変形など）
4. 新しいエアバッグモジュール（サイドエアバッグを除く）及びプリテンショナーシートベルトを取り付ける。
5. CONSULT- II 又は SRS エアバッグ警告灯を使用して自己診断を行う。[「システム点検」\(SRS-9 ページ\)](#) 参照。

SRS エアバッグが展開しなかった場合

1. 構成部品を下記の表を使用して点検する。
 - ・ 構成部品を目視点検し損傷がある場合は交換する。（へこみ、ひび及び変形など）
2. CONSULT- II 又は SRS エアバッグ警告灯を使用して自己診断を行う。[「システム点検」\(SRS-9 ページ\)](#) 参照。

点検要領

部位	展開	未展開
エアバッグモジュール (運転席及び助手席)	交換	1. エアバッグモジュールに変形及び損傷が無いか目視点検する。 2. 異常があった場合、エアバッグモジュールを交換する。 注意： 展開していないエアバッグモジュールは、廃却する前に展開させる。
プリテンショナー シートベルト	交換	1. アンカーの取り付け部及びベルトを点検する。 2. リトラクターが正常に作動するか点検する。 3. 損傷があった場合、プリテンショナーシートベルトを交換し廃却する前に展開させる。
エアバッグセンサー ユニット	交換	1. CONSULT-II を使用して異常が無いか点検する。 2. 異常があった場合、交換する。
ステアリングホイール		1. ステアリングホイールに変形がないか目視点検する。 2. ステアリングホイールを上下、左右、軸方法に動かしたとき過度のガタがないか点検する。 3. 異常があった場合、交換する。
スパイラルケーブル		1. ステアリング操作が重たくないか、異音がしないか点検する。 2. 損傷があった場合、交換する。
インストルメントパネル		1. 助手席エアバッグが展開していた場合、下記の部分にたわみ、変形、ひび等があるか点検する。 - 助手席エアバッグが展開する部分 - 助手席エアバッグモジュールブラケット（インストルメントパネル裏側） - インストルメントパネル取り付け部 2. 損傷があった場合、交換する。

事故後処理

側面衝突時の処理

側面衝突時のサイドエアバッグ及びプリテンショナーシートベルトの修理は下記の手順で行う

サイドエアバッグが展開した場合

1. 下記の構成部品を交換する
 - ・エアバッグセンサーユニット
 - ・サテライトセンサー（側面衝突側）
2. 展開したサイドエアバッグモジュールを取り外す。
3. 構成部品および関連部品を取り外し、下記の表を使用して点検する。
 - ・構成部品及び関連部品を目視点検し損傷がある場合は交換する。（へこみ、ひび及び変形など）
4. サイドエアバッグモジュール交換（側面衝突によって展開しているサイドエアバッグ）
5. CONSULT- II 又は SRS エアバッグ警告灯を使用して自己診断を行う。[「システム点検」\(SRS-9 ページ\)](#) 参照。

サイドエアバッグが展開しなかった場合

1. 構成部品及び関連部品を下記の表を使用して点検する。
 - ・構成部品及び関連部品を目視点検し損傷がある場合は交換する。（変形、損傷、き裂など）
2. CONSULT- II 又は SRS エアバッグ警告灯を使用して自己診断を行う。[「システム点検」\(SRS-9 ページ\)](#) 参照。

点検要領

部品	展開	未作動
サイドエアバッグモジュール	交換（シートバッグ含む）	1. 側面衝突時に衝突側にあったシートバックに損傷（変形、き裂）があるか目視点検する。 2. 異常があった場合、交換する。 注意： 展開していないエアバッグモジュールは、廃却する前に展開させる。
サテライトセンサー	交換（センターピラーインナーなど損傷があれば交換する）	1. CONSULT-II を使用して異常が無い点検する。 2. 異常があった場合、交換する。
エアバッグセンサーユニット	交換	1. CONSULT-II を使用して異常が無い点検する。 2. 異常があった場合、交換する。
プリテンショナーシートベルト	1. シートベルトが正常に引き出せるか点検する。 不具合があれば - センターピラーガーニッシュ変形があるか点検する。 - センターピラーガーニッシュに変形がない場合は、プリテンショナーシートベルトを交換する。 2. プリテンショナーシートベルトの損傷（変形、損傷、き裂）を目視点検する。 3. 損傷があった場合は、プリテンショナーシートベルトを交換し、廃却する前にプリテンショナーシートベルトを展開させる。	
シート	交換（シートバックフレームを含む）	1. 側面衝突時に衝突側にあったシートを目視点検する。 2. 異常があった場合は、交換する。